

日ラグ協発第 15-257 号

平成 27 年 6 月 18 日

関東ラグビーフットボール協会

会 長 貴島 健治 様

関西ラグビーフットボール協会

会 長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部 達三



「競技規則第 6 条 マッチオフィシャル」についてのルーリング 2015-4  
(競技規則の確認)

拝啓 平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーより過日、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。

日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。

貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

アルゼンチン協会は、競技規則第 6 条「マッチオフィシャル」について、明確化を求めた。

アルゼンチン・ナショナル・クラブ・チャンピオンシップのファーストディビジョンの 3 月 21 日の試合において、レフリーが試合終了時に笛を吹いた後、試合を続ける判断をしたことについて議論が生じたため、競技規則の明確化を求める。

シナリオ

ラックがあり、ボールがアンプレイブルになったため、レフリーが笛を吹いた。そしてその後、試合終了をはっきりと示すためにもう一度、笛を吹いた。得点は、18 対 19 だ

った。アシスタントレフリーがただちにレフリーを呼び、勝った側のチームで、ラックの中で明らかにオフサイドだったプレーヤーがボールを蹴ったことを伝えた。レフリーは、反則したプレーヤーに対してイエローカードを提示した。その後、そのレフリーは、ペナルティキックで試合を再開することにし、ペナルティキックによるゴールが成功、レフリーは試合終了の笛を吹き、得点は21対19であった。

競技規則の条文:

6.A.4 (b)           レフリーは、競技時間に全責任を有する。

6.A.8 (a)           レフリーは笛を所持し、試合の前後半の開始と終了に笛を吹かなければならない。

6.A.6           レフリーは、アシスタントレフリーが、タッチ、あるいは不正なプレーのあったことを示すため既に旗を上げていた場合には、決定を変更することができる。

質問:

レフリーが試合終了の笛を吹いたとき、試合を再開できるなんらかの理由が存在するか?

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

アシスタントレフリー(AR)が、不正なプレー/故意の反則を示すために旗を上げ、それが試合終了前の出来事であるなら、レフリーは、ペナルティキック、フリーキック、マークなどにより試合を再開することができる。旗を上げたのが試合終了後だった、あるいは、不正なプレー/故意の反則以外のものによる場合、試合は終了となる。

競技規則 5.7 (e)では、以下のことを強く定めている:

試合時間が終了したが、ボールがまだデッドではない、あるいは、スクラムまたはラインアウトが与えられ、それらがまだ終了していない場合、レフリーは次にボールがデッドになるまで競技を続行する。レフリーがスクラム、ラインアウト、反則しなかった側のプレーの選択、ドロップアウトを与えるであろう場合、あるいは、コンバージョンまたはペナルティキック成功の後、ボールはデッドになる。スクラムを組み直さなければならない場合、スクラムはまだ終了していない。時間が終了した後、マーク、フリーキック、またはペナルティキックが与えられた場合は、競技を続行する。

以上